

1. 米国と中国との貿易戦争の行方は？

トランプ政権が成立して以降、米中間の争いが日本のみならず全世界の経済のかく乱要因となってきました。トランプ大統領は本当に予測がつかせません。米国第一主義を掲げ同盟国である日本にも過激な要求（自動車関税25%）を突き付けてきました。

米中間の貿易戦争の発端は7月6日の米国の処置。11月の中間選挙で有利に立とうと、中国からの輸入品に対し340億ドルに対する追加関税を発動したのです。即座に中国は反応。同規模の制裁を課すことにしました。そして7月11日。トランプ大統領は追加の措置として2千億ドル規模の制裁（10%課税）を実施すると発表したのです。

「目には目を歯には歯を」ではありませんが、報復が更に報復を生むという負の連鎖が始まったようです。両国は経済のみならず、人口や軍事力、科学技術など“超”がつく大国です。自国優先主義で他国を統制しようとするれば、その相手国は反発するのは当然。ましてや“超”大国同士の争いですから、台風到来時の荒波と同じ様に、**周辺国だけではなく全世界はそのとぼちちを食いそう**です。

もし「日本は関係ないのでは」と思っている人がいるとすれば超楽観的過ぎます。2008年（平成20年）のリーマンショックを思い出して下さい。私も当初は「米国と欧州の一部の金融が混乱するかも」と思っていました。しかし直ぐに「現在の国際社会では経済のすそ野、底辺が草木の根のように複雑に張り巡らされている」ことに盲目だったことを思い知らされました。米国で上った火の粉が一挙に各国を不況へと突入させてしまいました。

最近の中国は諸外国から部品等を輸入し、加工・組立をして米国などへ輸出しています。その部品等の輸入元で大きな比重を占めているのが日本。家電、スマホ、車などあらゆる製品の、それも中核の部品が日本製品であることが多いのです。**「風が吹けば桶屋が儲かる」の通説通りで、米中経済紛争が長引けば日本経済に黄信号がともい始めます。**

賢明な経営者は今から「景気が悪くなる」ことを予想して、足腰を強くするよう動き始めています。直ぐに対応策を練り始めましょう。「善は急げ」です。

2. 災害時の緊急連絡網の再確認を

「災害は突然やってくる」と言います。正に北部九州から岡山まで襲った西日本豪雨災害、死者と行方不明者の計が250名近くという空前の大災害となりました。

経済活動に及ぼす被害も甚大です。昨年7月の福岡県朝倉市と日田市を襲って豪雨の傷跡もまだ癒えない中での大水害。今回の水害の復旧、復興への道のりは長く数年にもなりそうな気配です。

さて経営者はこのような災害に遭った（遭いそうな）時は何を思うのでしょうか。**必ず思うのが「社員は大丈夫か」ということ**でしょう。人命は尊い。それも苦楽を共にした社員であればなお更です。「Aは大丈夫か」「Bは〇川の近くに家がいったな」とか、社員の身の安全が気になるはずで

「社長、Aは大丈夫です」と早々に一報が入ってくると嬉しい。**安否情報は「下から上へと流れていく」社内態勢を創っておくべきです。また日頃からの訓練も大切です。**社長は全社員の安否を電話をかけて確かめることはできません。下から情報を流すことで、社長の心は休まっていくのです。

3. 「京セラフィロソフィー」を読む

稲盛和夫。言わずと知れた京セラの創業者で、盛和塾の塾長でもあります。私は入塾していませんが、国内外を問わず多数の経営者が氏の会社経営に対する姿勢・理念を学ぼうとしています。

氏が世に出した多数の著書でも言及されていますが、20代半ばで支援者に押されて京セラを創業。創業後は悪戦苦闘しつつも、製品開発や販路開拓に勤しむ一方で、**社員との意思疎通に全力を**尽くされてこられました。

その氏の経営思想を凝縮した本が「京セラフィロソフィー（オマーク出版）」です。氏の考えが多様、多局面から繰り返し述べられています。特に「**会社は黒字でなければならない**」という強い信念に感じ入りました。創業以来、赤字は一度もないそうです。税引後利益も10%以上をという主張も述べられています。HP掲載の直近業績では税引後利益率は8%以上です。これでも凄い！黒字経営を維持し続ける秘訣を語っているこの本はお勧めです。